

「令和5年度 市民トーク」開催結果（地頭方地区）

以下のとおり結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日 時 10月30日（月） 午後7時30分～午後8時30分
- (2) 会 場 地頭方原子力防災センター ジーボ
- (3) 内 容 市長からの市政報告・地区からの質問
- (4) 参加人数 47人

2 市長からの市政報告

当日の配布資料を添付

3 地区からの質問

別紙のとおり ※事前質問は回答書を配布・当日の会場での質問あり

4 当日の様子



地頭方地区 市民トーク 質問事項（防潮堤について）

開催日： 1 0 / 3 0 （月）

質 問	回 答
いつ完成するのか？早期の完成をお願いする。 また、堤防に昇る階段はどうなっているか？安全に海が見れるようにして欲しい。	地頭方体育館から地頭方漁港海岸までの延長1,915mについては、令和12年度までの完成を目指しており、引き続き国へ積極的に予算を要望してまいります。（令和5年9月の回覧資料に記載） 昇降路の整備計画については、別紙のとおり（令和5年10月に地頭方地区へ配布済）で、天端道路は歩くことができるように計画しています。
設置後の完成形を示して欲しい。 （海に目隠しをして終わりか、階段や遊歩道の設置があるのか？）	
工事が中途半端で完成予定が判らない。	
防災対策が必要な一方で、巨大なコンクリート構造物に頼る方法で事業を進めてしまえば、地域の財産である自然環境を失う事になりかねない。 沿岸部の暮らしと自然環境の折り合いをどうつけていくのか？ ズバリ、防潮堤に頼らないまちづくりは可能なのか？	東日本大震災後、市では平成24年に沿岸部5地区で地域住民とともに津波防災まちづくり計画書を作成し、これをもとに津波対策を進めています。 当市は海岸付近に市街地が形成されており、津波により多くの人命や市民の財産が失われると想定されていることから、L1津波（約100年に1度発生すると想定される津波）から被害を防ぎ、L1津波以上の津波に対し、浸水域や浸水深を減らし、津波到達時間を遅らせる防潮堤の整備は必要であると考えています。 現在進めております防潮堤の整備では、現状の自然環境へできる限り影響を及ぼさないように、環境調査を行い、工事を進めています。 今後も、市民の安全・安心のために、引き続きL1防潮堤の整備を県に要望してまいります。
東北地方で大きな堤防があったが壊れてしまった。 その後も大きな堤防を作っているが、同じ過ちを繰り返さない事を第一に考慮して対策を検討すべきでないのか？	防潮堤の構造については、国の技術基準や指針等を踏まえて検討し、国の研究機関や海岸工学の専門家の意見も踏まえ、決定しています。 また、東日本大震災の教訓を踏まえ、津波が堤防を乗り越えたとしても粘り強く機能が発揮するよう、堤防背後の被覆を厚くした構造としています。
L1整備計画は大幅な遅れが目立っている。 島田土木事務所等は、市民に説明を続けており、牧之原市は国に陳情等で働きかけている。 国が予算を付けてくれないので、遅れているのが原因と思われる。 遅滞した工事によって、現在の材料費の高騰による事業費差額の責任は、国にあるのではないかとと思われる。 国は、国民に説明責任が必要と思うので、牧之原市から確認をお願いする。 また、工事期間中に津波が来て被害があった場合は、天災でなくて人災と考える。 国は、国民の命を守るために完成するべきと指針が出ているのか市から確認をして欲しい。	防潮堤整備の予算につきましては、静岡県からも多額の予算を要求しており、市としても、予算確保のため、毎年整備促進の要望活動を実施しておりますが、要求通りの予算がいただけないのが現状であります。 予算の確保には、地域住民の皆様の切なる願いが必要でありますので、今後も早期完成に向け、地域の皆様と一緒に、国に要望を続けてまいりたいと考えます。 また、国の指針はありませんが、東日本大震災後、内閣府の中央防災会議専門調査会において出された「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告」では、L1津波に対しては海岸保全施設などの施設で津波を防ぎ、L2津波に対しては、住民避難を軸に土地利用、避難施設などを組み合わせて、取りうる手段を尽くした総合対策が必要であると記載されております。 これに基づき、牧之原市では防潮堤の整備を進めております。

地頭方地区 市民トーク 質問事項（沿岸部活性化について）

開催日：１０／３０（月）

質 問	回 答
芝生の件は子供たちが参加することで、海浜公園を身近に感じることができ良いことだと思う。 無理のない計画を進めていただきたい。 現在の灯籠流し・盆踊り・花火大会を継続できる形で進めていただきたい。（盆踊り会場の舗装を希望する） まずは、小さい子供たちが遊べる遊具の設置と、トイレの便器を洋式にして欲しい。 また、夜間の照明、防犯カメラ等、現状でも利用したくなるように少しずつ利用状況に合わせて進めていただきたい。	５件の質問をいただきましたが、沿岸部活性化と海浜公園の整備等のご質問ですので、一括してお答えいたします。 沿岸部活性化計画において、地頭方海岸は、「アクティビティの海」と位置づけており、これまでもＳＵＰや水上バイクなどのマリンスポーツの体験が行われてきました。また、ビタミンマルシェの開催や、地域の行事である灯籠流し、盆踊り、花火大会も実施され、多くの人が訪れて、賑わいの創出にもなっております。 沿岸部活性化計画の事業化につきましては、これまでも様々な団体からの提案はいただいておりますが、まずは、地域の皆さんが愛着（親しみ）を持ち集まる場所となるようグラウンド部分の全面芝生化を皆様のご協力をいただきながら進め、その後、外から人を呼び地域交流ができる場所への整備を考えています。 また、今年度は、地頭方漁港が国の漁港活性化事業である「海業」のモデル地区に選定され、南駿河湾漁協において、漁村の賑わいを創設する計画策定を実施していますので、漁協とも連携し、地域の皆様が利用しやすくなるよう、漁港と海浜公園を一体的に整備する事業計画の策定を検討していきます。
今までグラウンドを利用したことがありませんが、利用実績を教えて欲しい。	いずれにしても、地頭方地区の沿岸部活性化につきましては、地域の皆さんのご理解、ご意見、漁協が進める計画との連携、あるいは、民間事業者からの意見など様々ものを市としてとりまとめて、今後の事業計画を立ててまいります。あわせて、公園施設の整備などのハード面や海岸を利用したソフト事業なども検討してまいります。
散歩コースが必要。吉田公園のようにイベントや花を植えたり、きれいで安心して散歩ができるようにしたい。	また、具体的にグラウンドの利用実績についてご質問をいただいておりますので、これまでの利用実績を報告させていただきます。 令和元年度にはスポーツ少年団やグラウンドゴルフ大会で６団体１１回、令和２年度に同じくスポ少やグラウンドゴルフ大会で３団体１０回、令和３年度も同じく３団体５回、令和４年度は芝生の植栽イベントで１団体１回、今年度は、芝生の植栽イベント、遠渡区のグラウンドゴルフ大会で２団体３回利用されております。
ヨットスクールなどの海のスポーツ産業も考えてはいかがか？	
地頭方地区には、地頭方活性化委員会からの説明はないが、市は、事業の実施計画、資金計画、事業完了後の管理体制、運用方法について委員会から提出されて確認ができているのか？	

質 問	回 答
通学バスについて、料金等保護者の負担をどう考えているか？	今回策定する「学校施設整備基本構想・基本計画」において、基本的にスクールバスの利用料を無償とし、地頭方地区については1～9年生の全員をバス通学のエリアとしています。 ただし、7年生以上で自転車通学等を希望される場合は自転車で通うことも可能です。
今までより遠い学校に通う事になる子供や家族に対する負担軽減策を教えて欲しい。	通学方法については、保護者の皆様が一番ご心配するところであり、これまで実施してきた意見交換会等でも多くのご意見をいただけてきました。 学校施設基本構想・基本計画で通学方法を検討することから、昨年度は、保護者の皆様に通学方法についてのオンラインアンケートを実施し、上記の考え方は、そのアンケート結果を反映したものとなっています。
学校再編で通学距離が遠くなり、通学助成などへの不安がある。 幼稚園や保育園の保護者など、今から子育てをする年代に対しても周知し意見を求めるべきだ。	通学ルートやバスの便数・運行時間などの通学方法の詳細については、開校4年ほど前から保護者の方の意見も伺い進めていく予定です。
いじめ問題が発生しない学校にして欲しい。	いじめのない学校を目指しています。 新しい学校では、死角の少ないつくりにすることや、地域にも開放し多くの目で見守ることができるように施設のにも工夫をしていきます。
①目指す学校像の中で、「全ての子どもが主役の学校」とありますが、これは一人一人に温かさと優しさを持って指導がなされるという事ですか？ ②スクールバスの帰宅時の本数はどれくらいですか？ ③高学年と低学年の授業が終わる時間帯が違うと思うが、その点を考慮してバスの本数を検討されているのか？ ④学校跡地の計画（地小・御中）はありますか？ ⑤小学生はバス通学になると思うが、中学生の自転車通学の場合、自転車道には街灯や標識等が整備されるのか？	①子どもの主体性や個性を大切にしたいと考えており、施設の的にも子どもたちの居場所、個に応じた学びなどが実現できるようにつくりたいと考えています。指導については、担任だけではなく、子どもたちの学びをサポートする学習支援サポーターを始め、ALT、図書館司書、バイリンガル相談員、心の相談員など多様なスタッフが新しい学校には常駐するため手厚いサポートが可能になると考えています。 ②③スクールバスの本数や運行時間等の詳細については、開校4年ほど前からの検討となりますが、学年により異なる下校時間に対応して運行します。 ④地頭方小学校の跡地利活用については、現在検討をしており、11月16日(土)には「学校跡地に関する意見交換会」を開催予定です。皆様のご意見を伺えたらと思いますので、ぜひ参加ください。 御前崎中学校については、御前崎市牧之原市学校組合のため、御前崎市と協議しながら進める必要があります。牧之原市においては学校を再編する方針を出しましたが、御前崎市は現在、御前崎市の学校の在り方について検討しているところです。 御前崎市の方針を踏まえた上で、跡地等も検討していくことになると考えていますので、その際はぜひ検討へのご協力をお願いいたします。 ⑤中学生も基本的にはスクールバス通学となりますが、自転車を希望する生徒がいた場合、道路管理者と連携して安全対策をしていきます。
教育委員会は、進捗状況として「かわら版」の発行をしていますますが、市は最終的な計画を市民に分かりやすい方法で説明して欲しい。	現在、新しい学校づくりについての検討状況を周知するため、かわら版を全戸配布しています。 学校施設整備基本構想・基本計画を策定後、広く市民の皆様に周知するための報告会を開催するとともに、計画の概要版の全戸配布や広報まきのはら等での周知を行っていきたいと考えています。

質 問	回 答
令和3年度末に閉館したトーク地頭方は、今年度内に解体工事を実施し、更地にして所有者に返還するという発表を令和5年4月の広報誌で知った。 地元住民としては、40年間お世話になった閉館は名残惜しいが、老朽化が進み、公共施設最適化マネジメント計画の中で判断されたことには仕方がないと思っているが、以下項目についてご見解を伺いたい。 1. 事業費予算4,044万円の詳細 2. 公民館の規模（鉄骨造り平屋551㎡）→ 平均相場（重量鉄骨解体費6万円／坪）は？ 3. 551㎡（167坪）×6万円＝約1,000万円×1.3（諸経費）？ 4. コンクリート剥がしにかかる費用（更地）は？ 相場は？ 5. 杭抜き（パイル）は何本で処理費は？ 6. 情報によるとアスベスト処理費に思った以上の経費が加算される？ 7. アスベスト調査費にかかる費用は10万円前後が相場 8. 事前調査必須項目「図面調査・目視調査（現地調査）」相場は？ 9. 分析調査費は？ 10. アスベスト経験豊富な解体工事事業者に依頼するとして、処理面積は？ 11. アスベスト処理面積の費用目安（300㎡～1,000㎡）は、1.5万～4.5万円／㎡？ 12. アスベスト解体工事補助金制度の利用は検討したのか？ 以上の12項目以外にもかかる経費（人件費や重機費）はあると思われますが、4,044万円という金額に納得がいきませんので、行政上守秘義務に抵触しない範囲でご教示を願いたい。 また、全国で老朽化した空き家問題が発生している現在、将来、国主導で補助金制度を利用して実施するよう自治体への義務化がされることを想定し、明朗会計な解体事業所やリフォーム事業所と協定を結ぶ手段を考えたり、景観を損ねない策を考察したりして、現況以上に問題視されることを真剣に考え、良い移住先として、転居先として、わが市が全国の注目の的になるように取り組んでみたらどうか？	事業費40,435千円につきましては、地頭方公民館の解体工事とそれに伴い必要となる関連費用の合計の予算額であります。 すでに発注済みで、各費用の当初の契約額は、解体工事費が34,980千円、工事実施における工事監理業務委託料が1,672千円、浄化槽の水抜き清掃料が322千円で合計36,974千円となっておりますので、現時点では3,461千円が予算不用額となる見込みであります。 解体工事費につきましては、建物の解体に伴う工事費の他に、地中杭の撤去や借地である敷地内のアスファルト舗装の取壊し等に係る費用が含まれております。 アスベストにつきましては、石綿含有建材によって作業レベルが区分されており、発じん性が著しく高い建材を処理する場合には、作業箇所をしっかりと覆った中で作業を実施しなければならないなどにより、費用が嵩むこととなります。 今回のアスベストの処理におきましては、令和4年度に調査を行い、作業レベルは一番軽度のレベルという結果報告でしたので、書かれている費用目安よりも安価での実施ということになっております。 なお、解体工事の全体設計額及び請負契約額については公表されておりますが、工種ごとの費用の額は公表しておりませんので、回答は控えさせていただきます。 最後にアスベスト解体工事補助金制度についてですが、この制度は民間所有の建築物を対象にするものですので、今回の工事へは活用しませんでした。 また、空き家のリフォームや移住等に関しましては、最初に市長から説明があったとおり、市で空き家活用リフォーム等補助金等の制度を設けておりますので、ご承知おきください。 以上、回答とさせていただきます。

「市民トーク（地頭方地区）」の当日参加者による質問

※会場での質疑応答になりますので、標記が口語体になる場合があります。

質問 1 防潮堤について

防潮堤に関する県議会の討議に対する対処のお願いをしたい。

今年の6月県議会で、地域選出議員による相良須々木海岸L1津波対策防潮堤についての質問に対し、県の答弁が「早期に着手可能な落居地区から整備を始めて令和元年度に完了しました。」とあった。

この文章にしてたった1行の答弁の中に誤りが三つある。

1つ目は、着手は地頭方からである。

2つ目は、落居は海岸線が1,300mあるが、その中の70mの擁壁が完了しただけである。

3つ目は、完了と主張している箇所も、まだ安全柵の取り付けができていない。

議員は、地元に関する勉強不足だと思うが、誤りを見抜けず、反論もせず最後に感謝の言葉さえ述べている。

県の予算を牛耳る県幹部職員の認識がこれでは、事業完了扱いとなってしまう、落居と目に入った途端に予算がカットされるかもしれない。

なぜこのような誤りの討議がされるのか明らかにし、しかるべき場での内容の訂正がなされて正しい認識を持たれ、結果が落居区民に知れ渡るように、市の対応をお願いしたい

【市長回答】

県議会での答弁ということですが、私も着手したのは地頭方地区からだと認識をしています。

また、ご意見と同じく落居地区はまだ終わっていません

確かに答弁が少し合っていません。

県議会の答弁内容については、我々からも県に対し、ご意見があったということをしっかりお伝えさせていただいて、県から地域にちゃんと説明するようにということをお伝えさせていただきます。

質問2 学校再編の周知について

学校再編のことについて、非常に重要な問題で、生徒の数が減るから再編するというのは一理あると思うが、逆に再編した場合、特に地頭方地区の場合は、学校は無くなる、スーパーは無くなる、いろんな面で過疎化が進んでいくと思う。

そういったことに対して、こういうことをやっていきますとかという話が全くない。

学校の方を先に進めなくてはいけないかもしれないが、地頭方地区としては非常に大きな問題で、そういうところもしっかりやって欲しいということと、再編の話はどんどん進んでいくが、地区の人たちが、あまり理解していないんじゃないかと思う。

そういう意味で、どこまで進んで、ここは結論が出た、ここはペンディング、ここが良い点でここが悪い点だと、もっと明確にしてほしいと思う。

そういうところが非常に歯切れの悪く、何をやっているかわからないという状態だと思う。

それと資料の中で、生徒は減っていくという話があった。

ただ、生徒数は地区によっては増えているところもある。

市の読みが大きくずれているのではないかと思う。

出生数はわかっており、ずれるはずがないと思うのだが、その読みがずれてしまうほど精度の低いものであるので、本当に30年度とか、将来的にあの人数になるのか、もっと悪くなるのか、もう少し、しっかり見直してほしいと思う。

それと、この頃、湖西市でも学校再編の話があって、新聞やインターネット上で騒がれています。だいぶ住民と差があるようだが、牧之原市も近いのではないかと感じます。もう少し学校再編について説明会とかをやってほしいと思う。

一つ私の提案だが、先ほどもお話にあった市のラインがあるなら、例えば長々と書かなくて、今ここまで話が進みました、今回ここに結論が出ました、これからいつまでにこれをやります、というのを流すのはどうか？

ラインなら結構若い人たちもいるし、関心が上がると思う。

市の担当者に聞くと、ホームページに載っていますと説明を受けて、ホームページを見に行くが、素案だけでも200ページ以上ある。全部で500ページ近くあるのではないかと思う。それでQ&AなどもA3の用紙が貼ってあるが、全く読めない。

そういう状態で、市は出していると言っている。やはり大事なことであるし、出来上がってから何でこんなことやるのかと揉めるのも嫌なので、きっちりと進捗とか、こういう問題がある、ここは良いというのをはっきりしてラインなどで案内を出すという事をやってもらえれば、もう少し関心が上がると思う。

そういう意味で、市も住民も学校再編をもっともっと慎重に考えて欲しい。

出来てから、これは話が違ふということにならないように、もっと情報を出していただきたいと思うので、よろしくお願いいたします。

【市長回答】

学校再編については教育長にお答えをいたしますが、私からは地頭方地区の活性化について回答いたします。

先ほど資料で説明をいたしました、この地頭方地区というところは、すごく魅力があると思っています。

特に、地頭方海浜公園、漁協のところですが、ここを一つの地頭方地区の活性化の拠点としたいと思っています。

今回「海業」の振興モデル地区に選定されましたが、今、調査入っていますが、ここに民間の事業者が魅力を持って入ってくるというようなことのサンプリングをしっかりとやり計画作りを進めていきたい。

いわゆる民間業者がここへ来てやりたいというような魅力のある計画を作らないと、いくら絵を書いても絵空事になってしまう。全国のこういったところで実績を上げている事業者もありますので、そういったところの意見も聞きながら、現実味のある計画を作っていきたいと思っています。

それから保育園と幼稚園を統合するという話をさせていただきました。

学校こそなくなりますが、保育園に関しては認定こども園化します。

それで民間移管して国の補助金等もらい、財源確保をして、建て替えを目指していきたいと考えています。

今、具体的にはこの二つであります、それから学校の跡地利用、これについても話し合いの場を11月16日に地頭方地区も設けています。

皆さんに集まっていただいて行う予定でありますので、ぜひ、ご出席いただいて、未来の地頭方地区、地頭方小学校をこれからどのように活用するかということについ

てご協議いただけるとありがたいと思っています。再編については教育長からお答えします。

【教育長回答】

ご意見ありがとうございます。

望ましい教育のあり方に関しては平成 30 年ぐらいから、これからの子供たちにどういった教育が望ましいかということとをずっと話し合ってきました。

その後、学校再編について、計画をどういった形で作るかということ部内だけではなく、地域の方々や様々なところからご意見をいただいて、学校再編計画が出来上がりました。現在は、昨年と今年にかけて、学校施設の整備計画等を作っているところであります。

やはり地区を回って、学校再編に関する様々なところの周知が十分じゃないのではないかというご意見は各地で聞きます。

私達としては、地区に説明を行ったり、話し合いの状況を「広報まきのほら」、それだけでは不十分ですので、最近では「かわら版」ということで、全戸配布しています。他にはホームページなど、私達が考えられるありとあらゆる手段でお知らせするように努めてまいりました。

今、ラインでお知らせをしたらどうか？ということのご提案もありましたけども、それも一つの方法ではありますが、要約して伝わる部分と、要約では不十分な形で伝わるということもありますので、一長一短あるかなと思います。

市のホームページを見ていただければ、全ての議事録等も全部載せています。

ただ、提案をいただきましたので、部内で検討させていただきたいと思います。

少子化の数の把握をもう少し正確にというか、予測をしっかりと把握するということは当然のことだと思っています。

学校を作るにあたっては、施設がどれくらいのものが必要なのかということも、子供の数、学級数に関係してきますので、それは今後、推移をしっかりと見守っていきたいと思います。

地区によっては子供たちが増えているところもあるという事ですが、その年度によって違いますが、出生数は、先ほどのグラフで示した通りで、右肩下がりですが、学級が増えたりする要因としては、外国籍の子供さんが転入してきて、例えば細江小学

校については、市内でも本当に減少が緩やかで、年によっては増えているという状況があります。

この外国籍の子供さんについては景気の動向もあり、なかなか予測が難しく、困難な状況もありますが、コロナも、アフターコロナになった関係で増加してくる可能性はあるのではないかと考えております。

いずれにしましても、学校再編は、これから具体的な施設の整備等の話になりますので、その状況を皆さんのところにお伝えしながら取り組んでいきたいと思っております。

【再質問】

ありがとうございました。ラインの例を出したのは、ホームページでは、難しくてたどり着けない。ページ数も多いので、ラインで説明した後、ショートカットとかを押して行ければ、見る人も増えると思うし、そうして欲しいなと思っております。

私も結構ネットは見る方ですが、それでも結構難しいです。

【教育長回答】

わかりました。検討させていただきます。